

研究対象を絞る

田中重人
(東北大学文学部現代日本学専修)

「現代日本学」とは

現代 × 日本学 である
英語名：Innovative Japanese Studies



伴野文亮・茂木謙之介編 (2022)『日本学の教科書』文学通信。

目指すところ

学際化+国際化

実際にはむずかしいが、どうすれば？

対象を絞り込む戦略

「複数の領域から魅力的に見える研究対象」
について
「自信をもって提示できる核心部分」
を追究する

高橋章則 (2022)「日本学の「場」を作る：東北大学を事例に」『日本学の教科書』文学通信, 31-52.

東北大学文学部 (2022)『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会。



沼崎一郎・永井彰・佐倉由泰 (2022)「人文社会科学の学び方」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (p. 34).

ある「問い」に対し、はっきりした「答え」を出し、その答えの「理由」をしかりと示す

〔理由は〕単なる思い付きではなく、確かな「根拠」に基づいていなければなりません。

小松文晃 (2022)「社会学「越境」のすすめ」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (pp. 148-149).

スマートフォン等の端末の部品やSNSでのやりとり、コンビニエンスストア、電車の中、両親の介護、身近な人の死、結婚、恋愛も含めた感情……など、すべて社会的課題と直結しています。

嶋崎啓 (2022)「ドイツ文学 ドイツ文学の研究の仕方」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (p. 242).

ドイツ文学で卒業論文を書こうと思った場合、どうすればいいでしょうか。
①作品を読む
②自分が何に引っかかったかを意識化する
③同じ問題が過去に扱われているか調べる
④過去の研究に反論できるか考える

嶋崎啓 (2022)「ドイツ文学 ドイツ文学の研究の仕方」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (p. 243).

特別な印象が残らない場合、作品とあなたとの間には何も関係がないということです。それ以上その作品にこだわるのはやめましょう。

嶋崎啓 (2022)「ドイツ文学 ドイツ文学の研究の仕方」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (p. 244).

感動をそのまま研究にしようとするとうまくいかないことも多いです。感動は感動として、それとは別に、研究の対象として「気になる」ことを出発点とするのが現実的だということはいくつもあります。とは言え、感動がなければやる気も起きませんので、この見極めは難しいものです。

足立薫 (2022)「美学・西洋美術史 イメージの力、再発見！」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (pp. 346-347).

人間には、多かれ少なかれ、イメージとその描写を見ながら、何がどのように表されているかを分析的に理解することができる観察力があります。……じっくり見るだけで、意外にも多くのことがわかります。

Lorenzo Lotto (1535?)
Annunciazione di Recanati

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lorenzo_Lotto_066.jpg



足立薫 (2022)「美学・西洋美術史 イメージの力、再発見！」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (p. 350).

マリアは〔天使の〕この言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ〔……〕マリアは天使に言った。〈どうしてそのようなことがありえましようか。わたしは男の人を知りませんのに〉

〔新約聖書 ルカ 28-34、新共同訳による〕



Leonardo da Vinci (1472?) *Annunciazione*
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Annunciazione_\(Leonardo\)_cropped.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Annunciazione_(Leonardo)_cropped.jpg)

長岡龍作・杉本欣久 (2022)「東洋・日本美術史 人はなぜ「美術」を作ったのか」
『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会 (pp. 273-277).

問題意識を持たずに漫然と眺めるだけの「観察」では、具体的な「情報」を引き出すのは困難です。けれども「比較」という方法を用いれば違いが炙り出され、「分析」と呼ぶに相応しい手応えのある「観察」が可能となります。

自身の認識がみるみるうちに変化していく経験を、ぜひみなさんにも味わっていただければ



俵屋宗達 (17C) 風神雷神図屏風
<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Wind-God-Fujin-and-Thunder-God-Raijin-by-Tawarayasa-Sotatsu.png>

<p style="text-align: center;">つまり</p> <ul style="list-style-type: none"> よく見る なんらかの基準／仮説を持つ 他のものと比較する <p>「核心」をつかんだと思えるまで繰り返す</p>	<p style="text-align: center;">人文社会科学の研究対象</p> <p>ふつうの人がふつうに知覚できるが、 意識化・言語化・体系化・一般化 しにくい事柄</p> <p>→ 特別な測定装置を必要としない → 専門家の優位はどこにあるか?</p>	<p style="text-align: center;">映画『ゴジラ』(1954 東宝)</p> <p style="text-align: center;">【目次】</p> <p>はじめに：現代日本学とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 映画『ゴジラ』にみる科学者像 2. メディア表象から考える『ゴジラ』 3. 歴史と『ゴジラ』 <p>おわりに</p> <p><small>以下の静止画の引用は東宝発売のDVDビデオ (TDV26142D) による。</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> 監督：本多猪四郎 特殊技術：円谷英二 製作：田中友幸 音楽：伊福部昭
<p style="text-align: center;">作り物としての映画</p> <p>画面に写るものはすべて演出</p> <p>→細部にも作り手の意図がはたらく →受け手も何かを受け取るはず</p> <p>文学でも基本は同じ ただし、映像の情報量は格段に多い</p>	<p style="text-align: center;">『ゴジラ』(1954) あらすじ</p> <ul style="list-style-type: none"> 貨物船等、南方海上で遭難 (原因不明) 大戸島に怪獣が出現 (深夜) 大戸島調査団派遣、怪獣を目撃 大戸島近海でのゴジラ攻撃作戦 ゴジラ、東京湾に出現。品川付近に上陸 ゴジラ、再上陸 芹沢博士、酸素破壊剤でゴジラを抹殺 	<p style="text-align: center;">個人的な心構えとして……</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな部分はあつかいにくい 違和感を探す 	<p style="text-align: center;">使えるかもしれないアイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「科学」のイメージ／現実 戦争を連想させる映像表現 伊福部昭の音楽
<p style="text-align: center;">ふたりの科学者</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>芹沢大助 (化学者) [配役：平田昭彦]</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>山根恭平 (古生物学者) [配役：志村喬]</p>  </div> </div>	<p style="text-align: center;">ゴジラ来襲後の東京</p> 	<p style="text-align: center;">「平和への祈り」曲想</p> <p>旋律 (の音列) だけ取り出してみると</p> <ul style="list-style-type: none"> 教会音楽っぽい (フリギア旋法?) 滝廉太郎「荒城の月」との類似性 <p>※「荒城の月」伴奏作曲は山田耕筰</p>	<p style="text-align: center;">発展させる方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 多数のアイデア中、使えるのはわずか →とにかく数を出す →面白そうなものを追いかける 当初の研究対象にこだわる必要はない。 「核心」に近づいているかが重要。
<p style="text-align: center;">卒業論文 (2022年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 川上未映子『乳と卵』論 同性愛文学としての堀辰雄『燃ゆる頬』論 『カードキャプターさくら』の研究 小松清『仏印への途』論 多田北鳥の思考と作品 江戸時代のジェンダー規範と女性たち 地域社会における神社の研究 大日本美髪会と公衆衛生 仙台における軍隊と地域の関係性 個別労働紛争解決制度の20年 「ばんえい競馬」再興のプロセスと現在 外部者と連携した地域活動について 	<p style="text-align: center;">特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行研究がすくない 文書の収集／分析が中心 	<p style="text-align: center;">アイデアを出すには</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識量が問題 →インプットが重要 (これまで/これから) →知識の引き出しがた 単純化／パターン化の方法 →定跡／分類を知っておくと有利 	<p style="text-align: center;">研究の進めかた</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に頭の片隅に 常に資料を携帯 できる限り覚える メモ、ノートなどの活用 他人と話す (→メイン・サブ担当教員)